

## 海外相場の焦点は中国・青島港の問題

橋本健一郎氏リポート①

国内アルミニウム需給は引き継ぎたままで

### ■概況

六月前半は中国の四月の非製造業PMI指数が四ヶ月連続で50を割った事による景気刺激期待や、中国の四月の貿易統計で輸出額が市場予想を上回ったこと、中国貿易黒字が一八四・五億ドルで予想の一三九億ドルを上回った。

ニッケルがヨーカレードのヨコニッケルで生産停止が伝えられパラク買い殺到、一気に二万〇、〇〇〇ドルを突き抜け二年ぶりの高値をつけたことを好感し、LMEアルミニウム相場は上昇する場面もあつたが、四月の中国製造業購買担当者指数が50・4と予想の50・5を下回ったこと、四月の中国HSBCサービス部門PMIは五一・四、前月の五一・九から低下したこと嫌気し下落、一・七五〇ドル(現物後場買い)と前月最終価格から一九ドル上げての前半締めとなつた。

後半はニッケルが一時一万八、〇〇〇ドル割れまで暴落した事、一・九三月期のユーロ圏GDPが予測以下だった事、四月の米鉱工業生産指數は市場予想よりも悪化し前月から〇・六%低下したこと。第1四半期の米GDPが前期比一%減に下方修正。予想の〇・五%減を下回ったことなどマイナス材料もあつたが、四月の米住宅着工件数は前月比一三・二%増加の一〇七・二万件で予想の九八万件を上回つたこと、ニッケル先物で二万ドル台を回復したことやドル安背景でコモディティーも上昇した。

六月五日現在、LMEアルミニウム相場は(現物後場)一、八〇五ドルと前半締めから五五ドル上昇してのスタートとなった。

ただ中国青島港保税倉庫で銅二万t、アルミニウムの倉荷証券が複数の金融機関の担保にされている多重債務問題が台頭、現在、鉄鉱石・銅・アルミの出荷停止が行われているとの報を受け今後の動向に注目される。

### ■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート(TTS)  
一〇三・二〇→一〇二・七四(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比三・四%増の七七万〇、四八四台であった。

◆自動車販売台数  
車販売台数(輸除く)は前年比五・六%減の二〇万六・九〇六台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸

数は前年比三・三%減の七万五、二八六戸であつた。

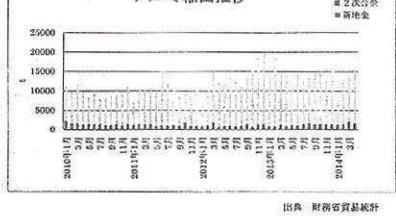
### ◆貿易関連指標

財務省貿易統計によれば、輸出はアルミニウム地金が前年比二三六・五%増の一九二t、二次合金が七八・四%増の一、四三一t、スクランプが〇・四%増の一萬三、七一〇t。輸入は新地金が前年比一五・五%増の一五万五九〇七t、二次合金が八・二%増の九万八、二〇六t、スクランプが三・二%減の七九四t、合金スクラップは一・九%減の三、七三三t。

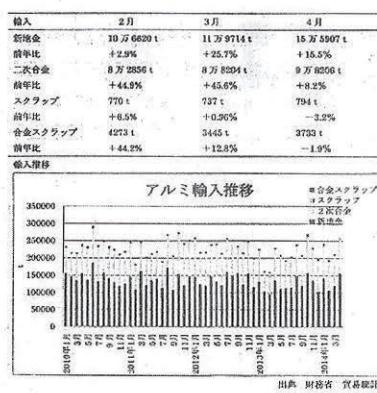
### 輸出

	2月	3月	4月
新地金	123t	273t	212t
前年比	+144%	+19.6%	+236.6%
二次合金	1240t	1797t	1431t
前年比	+65.1%	+67.4%	+78.4%
スクランプ	11695t	12518t	13710t
前年比	-33.4%	-9.2%	+0.4%
輸出合計			

アルミニウム輸出推移



出典 財務省貿易統計

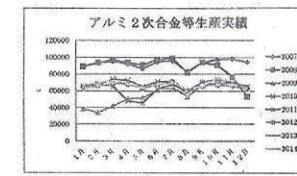
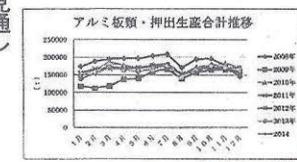


### ■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の庄延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比九・二%増の一七万八、五八五t。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は前年比四・一%減の六万八、一二〇tであった(関連グラフは六面に掲載)。(六面へ続く)

(6) 第15389号【日刊・月曜・日曜・祝日・休日休刊】

(四面より続く)



## ■見通し

四月は中国経済減速懸念およびインドネシアのアルミニウム輸出規制の対応に一喜一憂した月となった。自動車生産は七十七万台、四八四万台で、前年同月の四万五、三二〇万台に比べて二万五、一六四台(二・四%)の増加となり、八カ月連続で前年同月を上回った。

(1)乗用車六五万台、四九〇万台で二万〇、八〇六万台(三・三%)の増加となり、八カ月連続のプラス。(2)トラック一〇万台、五五三万台で五、一四四台(五・〇%)の増加となり、一〇カ月連続のプラス。(3)バス一万〇、四三一万台と七八六万台(七・〇%)の減少となり、五月ぶりにマイナス。

このうち大型は七三三万台と三九台(五・六%)の増加、小型は九、七〇〇万台で八二五万台(七・八%)の減少。四月の国内需要は三四万五、一二六万台で、前年同月比五・五%の減少であった。

うち乗用車一九万台、八二六万台で前年同月比五・一%の減少、トータル五万台、七五七万台同七・一%の減少、バス六三四万台と二八・六%の減少。

輸出は前年同月比五・四%の減少(実績)。

自動車販売は二〇万台、九〇六万台で五・六%減少。うち乗用車は九・九%減、貨物四・七%増、バス一九%減。

四月の住宅着工戸数は、七万五、二八六戸(前年同月比二・三%減)、季節調整済年率換算値は九〇・六万户(前月比一・三%増)、二カ月連続マイナス。

消費マイナスの改善等もあって、堅調に推移してきたが、足下では、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動が表れています。

持家

前年同月比では三万月連続の減少(前年同月比二・一%減)、季節調整値の前月比二・八%増)。

(貸家)

二・〇%増)、季節調整値の前月比二・八%増)。

分譲住宅

前年同月比では二万月連続の減少(前年同月比二・九%減)、季節調整値の前月比五・七%減)。

(分譲マンション)

前年同月比では二万月連続の減少(前年同月比二・九%減)、季節調整値の前月比五・七%減)。

缶

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は、前年比四・一%減の六万八、一一〇tであった。

缶延・押出品生産数は九・二%増の一七万八、五八五t。八カ月連続プラス。

庄延

関して、

①缶材三万五、一一一ト(一・八%増)

四月のビール系飲料の出荷量は、前年同月比二一・〇%減であった。これは、三月に増税前の駆け込み需要と前年同月比一六・七%増と伸びた反動と見られるが、ボトル缶(主に「ヒート缶」の増加等により二カ月連続のプラス)。

②自動車一万〇、九三九、(五・九%増)

四月の乗用車販売台数(六万五千台)は、二月までの伸び需要の反動で前年同月比二一・八%減となりましたが、三月の乗用車販売台数四一万七千台、前年同月比二・八%増)、トヨタの好調等により八カ月連続のプラス。

円安効果に加え、一部庄延メーカーの海外工場立ち上げに伴う素需輸出の増加により一三万月ぶりにプラス。

内・外装材等が伸びたことが、前年同月比一九・八%増)、一一カ月連続でプラス。

②自動車一万一、〇〇〇ト(四・九%増)

板類と同様の動きであり、八カ月連続のプラス。

輸出は新地金が前年比二三六・五%増の二二二t、第二次合金が七八・四%増の一、四三二t、スクランプが〇・四%増の一、万三・七一〇t。

割安感のあるスクランプ以外は円の安定を背景に輸出増との見解。

輸入は新地金が前年比一五・五%増の一五万五、九〇七t、第二次合金は八・二%増の九万八、二〇六t、スクランプは二・二%減の七九四t、合金スクランプは一・九%減の三、七三三t。

前月に続き消費増税前の駆け込み需要の反動も少なく自動車関係を中心く好調な内需から輸入増。

アルミニウム需給に関して

住宅関連は新設住宅着工数が前年比二・三%減の一千万台連続減少。持家一六・一%減、貸家二二・〇%増、分譲住宅七・八%減、分譲マンション一六・九%減と大幅減少。

消費税率前の駆け込み需要も終了確定。二カ月連続減少。来月の動向に注視したい。

自動車は生産が八カ月連続上昇の三・四%増。ただし五月の国内販売台数が前年比五・六%減。

今月のこう販売減にも関わらず生産は堅調に注目。

為替が前月から引き続き一〇一~一〇三円近辺で円高が継続していることや、自動車関係を中心としたアルミニウム関連では、駆け込み需要の反動はあるが、慢性的な供給不足から需給は引き締まってきたとの見解。

アルミニウム価格に関して

中国・インドネシアのアルミニウム鉱石の禁輸措置政策の対応、及び中国・青島港の多重債務問題に左右される。インドネシアのアルミニウム鉱石の禁輸措置政策の対応に関しては、インドネシア国内への精錬所の建設が担保されれば即減税するとの報道もあり、緩和する方に向かうのは確か。ただ今月中にそれが解決される可能性は低く、年内は一喜一憂しきだ。

中国・青島港の多重債務問題に関しては多かれ少なかれ事実であると認識しているが、一旦セメントの悪化、パラクから暴落する可能性はあるものの、政府が不良債権の買い取り機関などの策などを考えており来月以降は落ち着いた相場展開になるのではないか。

それらを踏まえたアルミニウム価格、上値は、インドネシアのアルミニウム鉱石の禁輸措置政策の影響及び中国・青島港の多重債務問題への道筋が確認された場合に、ニッケルのパラク買入を受けて一段高値のもう一段高値の一、九〇ドルを予測。いずれかの場合の一、八〇~高ドル。

下値は、アルミニウム鉱石の金融問題での日元高や青島港多重債務問題への未対応が起れば、失望感から五月安値の一、七〇ドルを予測。

為替TTSは欧州のPMIをはじめとする指標が比較的安定している事や米経済指標も堅調などから、欧米共に変化のない場合、下値ドル一・〇高円安から二月安値の一、四円台、上値は欧米の経済指標が著しく悪化した場合、失望感から一〇・四まで円高が進むとの予測。